

「学習カトレーニング」の普及

インストラクショナルデザインで学ぶ究極の学習方法

(大学向)



--Learning Based Society study Studio--

内田 実

lbsstudio@support.email.ne.jp

「学習カトレーニング」好評発売中

<http://www.ne.jp/asahi/lbs/studio/#elp>

?なぜ「学習力」?

大学生

- 大学でのドロップアウト
- 言われたことを覚えることはできるが自分で考えることができない
- なにがしたいか分からない
- 就職先の選定ができない(将来を考えることができない)
- 無難に過ごすことが大事(挑戦するなどということは、無理、無駄。なにも無しに過ごすことが最高)

新入社員

- 入社して直ぐにやめる
- 言われたことはするが、自分でなにをすればよいか考えることができない
- なにがしたいか分からない
- 「社長になりたい」という新人がいない
- 無難に過ごすことが大事(挑戦するなどということは、無理、無駄。なにも無しに過ごすことが最高)

自分を知る

自分のまわりを知る

「学習力」 定義

「学習力」の定義は色々考えられると思いますが学習力トレーニングにおける「学習力」の理念とは

個人とその個人が所属する組織とその組織が所属する社会が必要とする能力を「効果的」「効率的」「魅力的」に学習し、獲得した能力を活用することにより、個人が成長し、組織が繁栄し、社会が発展することができる能力を「学習力」と定義する。

「学習力」は活用したら評価して、より深く掘り下げたニーズの分析から再度新しい学習方法を開発して、学習を繰り返していくことが必要である。

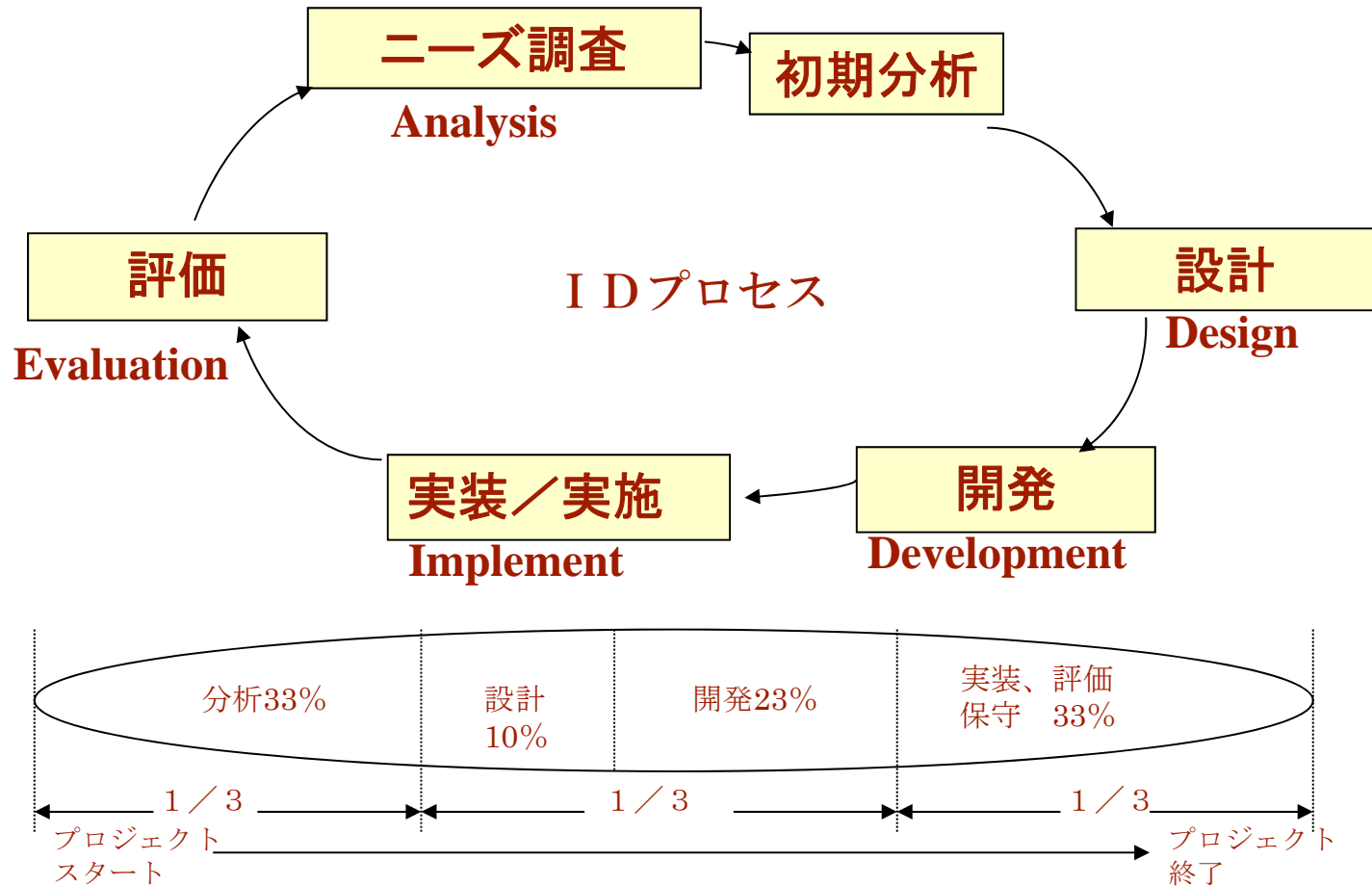
「学習力」は各自が命絶えるまで成長させ、活用を図っていかなければならないものである。

「学習力」 具体的な能力

- 自分の成長という観点から自分の問題、ニーズを知ることができる
- 自分の成長が組織の発展にどのように寄与することができるか考え、自分の成長と組織の発展を統合して進めることができる
- 組織の発展が社会の繁栄にどのように寄与することができるか考え、組織の成長と社会の繁栄を統合して進めることができる
- 上記を実現するために、インストラクショナルデザイン手法を活用して、「自分や組織、社会のニーズ分析」、自分の「学習の設計」「学習方法の開発、選択」「学習の実施」「学習結果の評価」ができる。

インストラクショナルデザイン(ID)

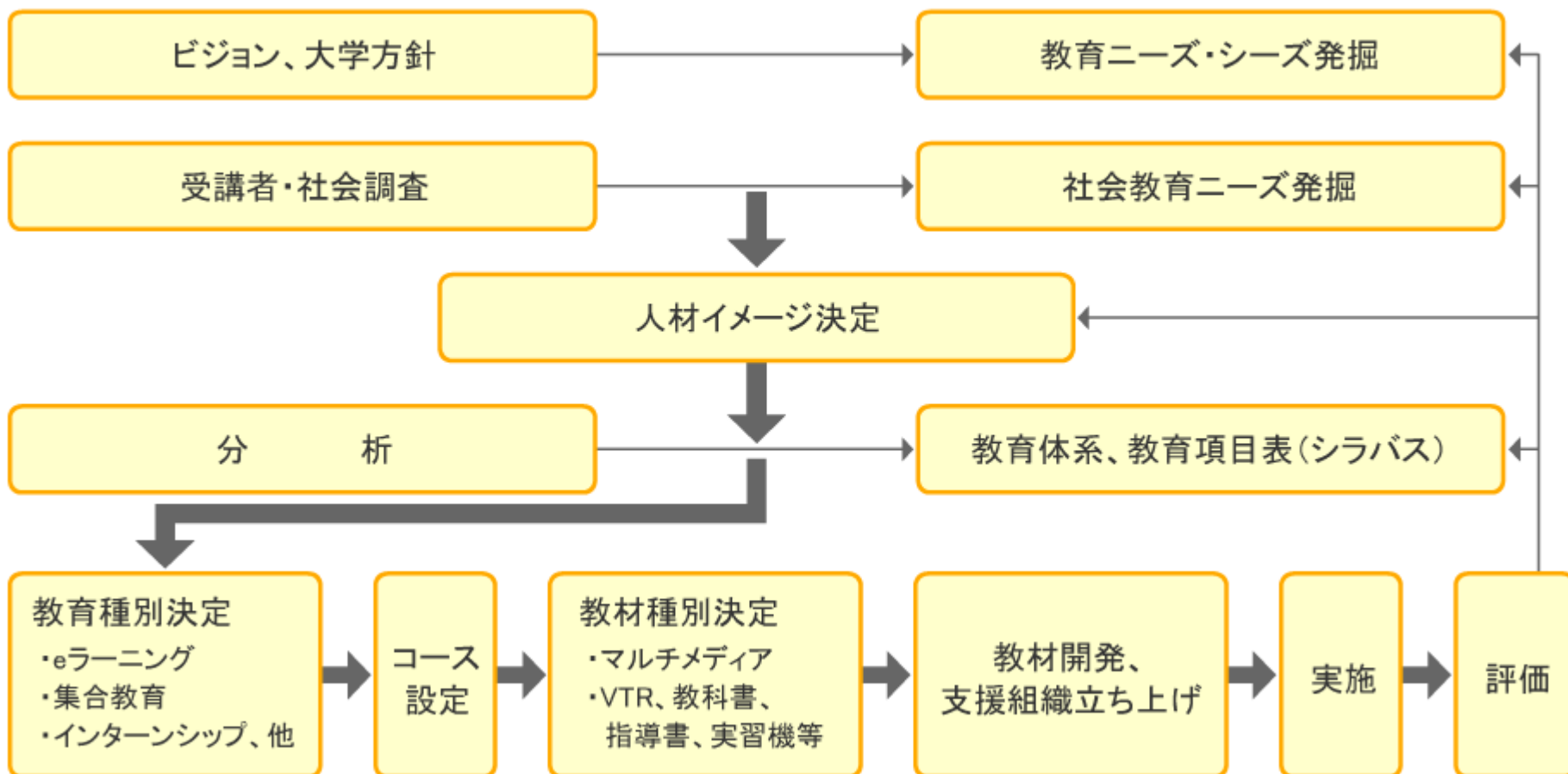
• ADDIEプロセス(Lee & Owens)



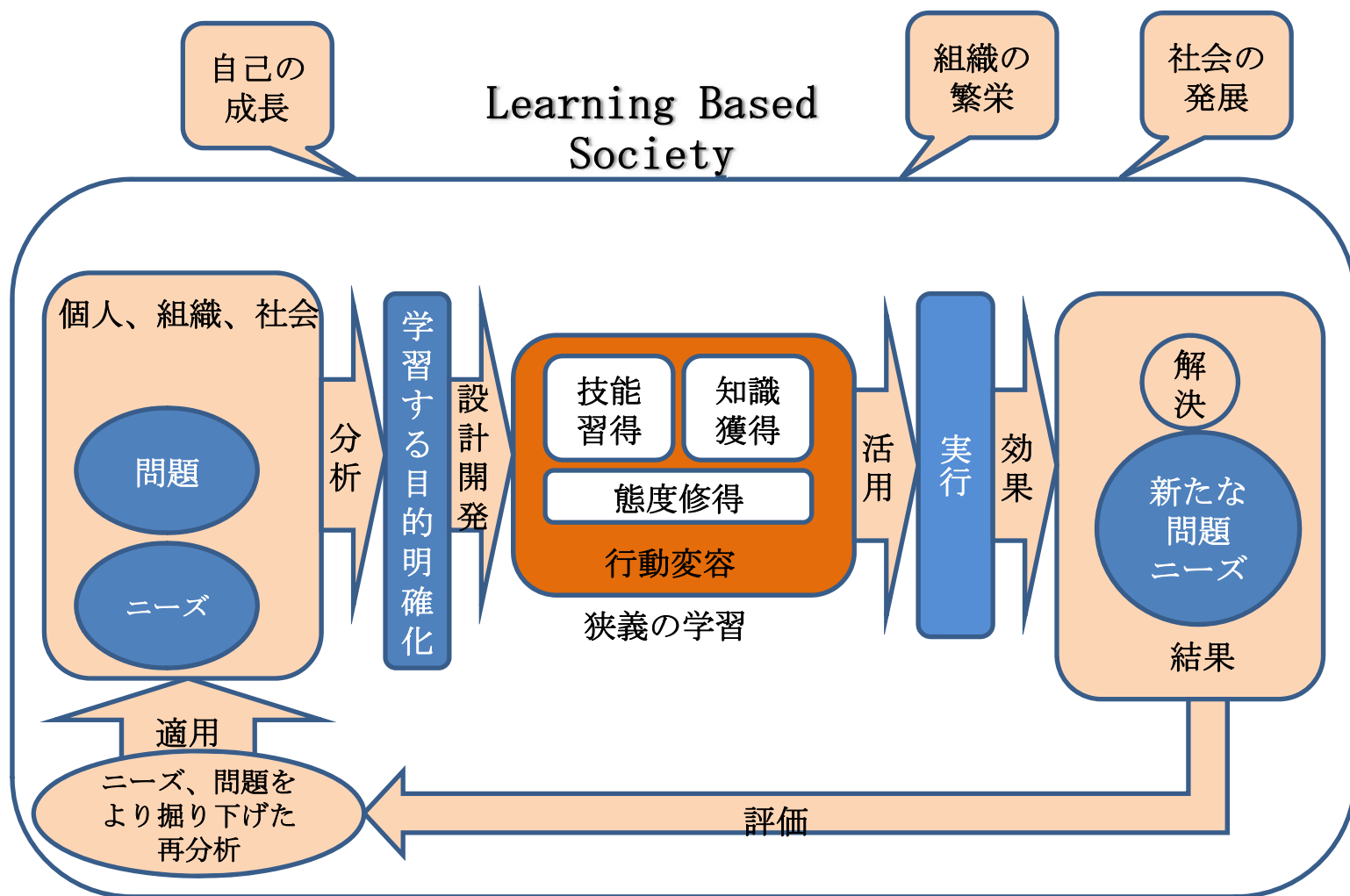
IDとは教育の真のニーズ充足のために学習の効果・効率・魅力向上を図る方法論である。

大学での教育という観点 インストラクショナルデザイン

高等教育機関のためのインストラクショナルデザインモデル



学習者としての視点 学習力



もう一度必要性を考えよう

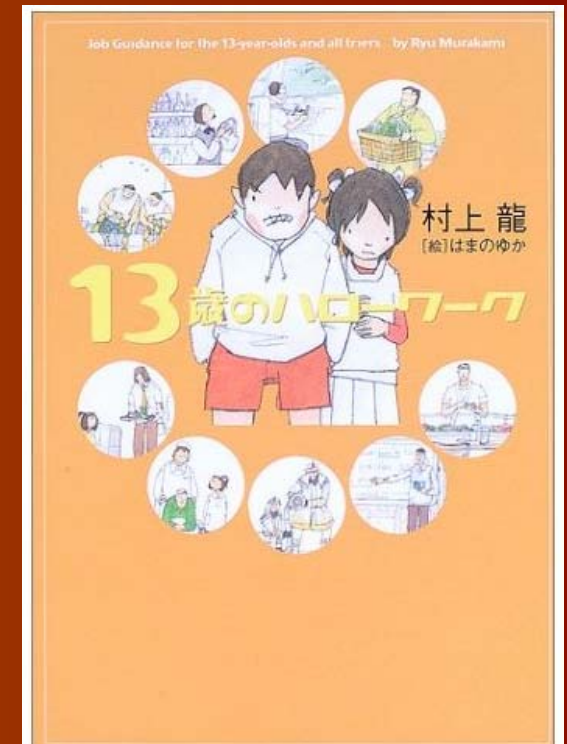
● 日本の現状

- 言われたことは覚えるが、自分で何を学習すれば良いかわからない
- 学習とは記憶することだと思っている
- 大学（学校）を出たらもう勉強などしない
- 勉強は嫌い、学校も嫌い、仕事も嫌い
- 海外留学をする学生も減少し、日本は衰退の道？
- 海外勤務、海外企業勤務は嫌だ
- 海外の人を採用する企業が増加（日本の新卒には必要な能力がない？）
- 想像力もモラルも無い受験エリート
- 大学中退、新入社員の退職が多い

学習力のサイクルが切れてしまふ、続けさせる能力が無い

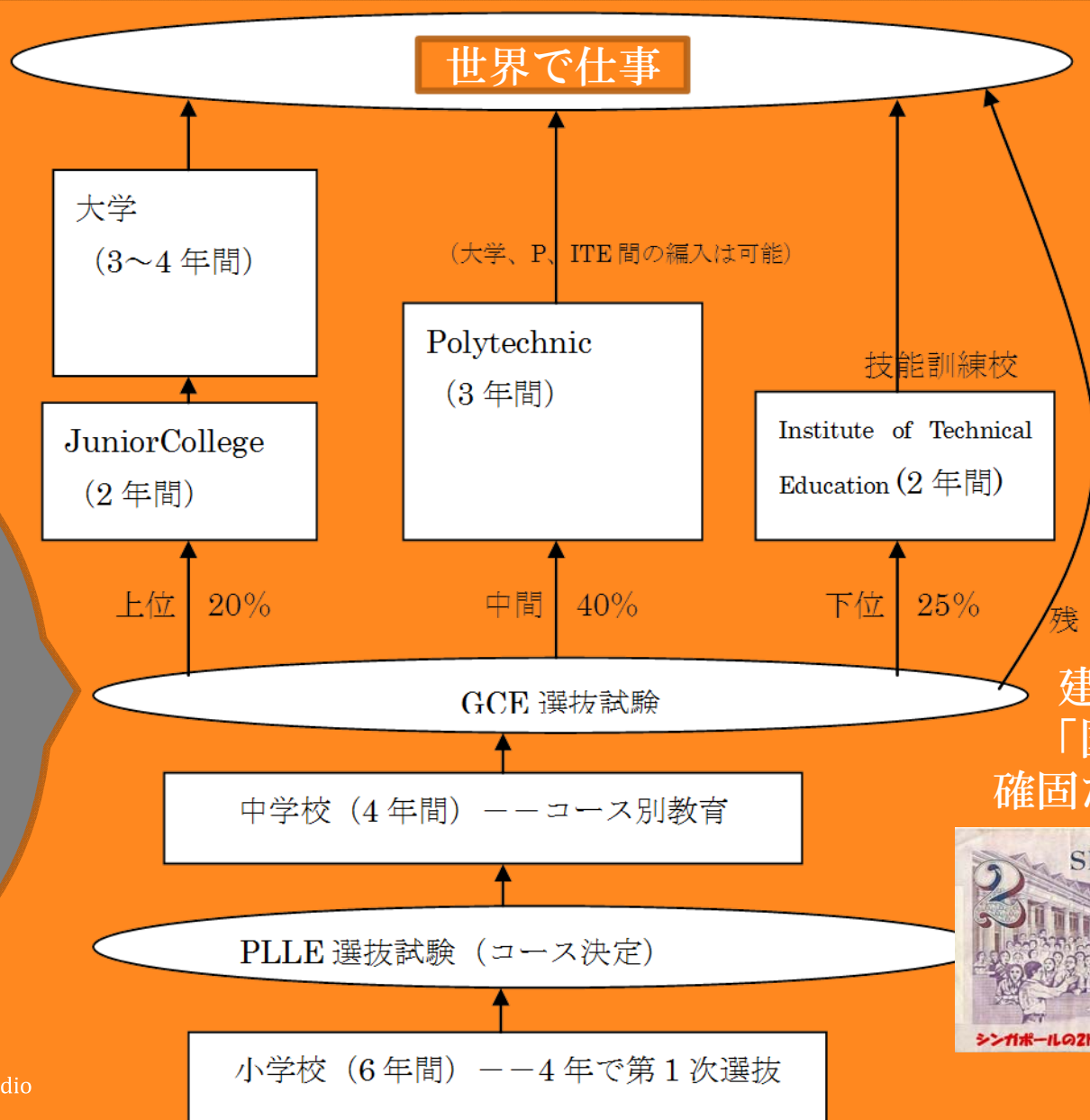
誰に修得してもらおう？

- (小学校のときから----難しい)
- 大学受験を考えている人
- 大学入学時点
- 就職活動開始時点
- 内定者教育として
- 新入社員教育として



参考:ロングセラーで
よい本だが、読んでいる
中学生はほんのわずか

参考 シンガポールの教育体系



幼い時から職業を意識して学習している彼らに、日本の学生は太刀打ちできるか

建国者リーカンユー氏
「国の資源は人、
確固たる教育が必要」



学習カトレーニング内容（1 / 2）

NO	実施項目
0	現在の自分の学習の評価
1	自分の学習した活性知識例
2	自分の学習した不活性知識例
3	欲求満足度分析表
4	現在の自分の学習方法、学習目的を振り返る
5	好きなことの分析
6	得意なことの分析
7	自分の選んだ仕事の分析
8	（仕事はだれのどのような欲求を満足させるか）
9	Life計画の立案
10	ニーズ調査対象
11	ニーズ分析

学習カトレーニング内容（2 / 2）

NO	実施項目
12	学習ゴール設定
13	学習ゴール評価
14	学習者分析
15	自分のしたい仕事のタスク分析
16	自分のしたい仕事の学習目標分析
17	自分の学習タイプ
18	ガニエの9教授事象の学習への応用
19	良かった授業、悪かった授業の分析
20	自分の仕事の学習方法
21	arcs分析
22	学習評価

これでは、日本はようになる

- 新入生に学習してもらえるか、学習が可能か
 - 「発言させたら、次の授業には出てこない」
 - 「グループ学習？不可能だよ、そんなこと」
 - 「黙って黒板をノートにコピーさせるのが一番良い」
- 就職活動開始時などにこの学習がしてもらえるか
 - 「まずは、挨拶の一つでも覚えさせることが必要」
 - 「無駄、無駄、それ以前のレベルだよ」
- 大学の経営陣はこのような教育をどのように考えるか
 - 「大学の生き残りに役立つなら使ってやってもよいが.....」
- 教員はこのような教育をどのように考えるか
 - 「必要かもしれないが、自分には関係ない」

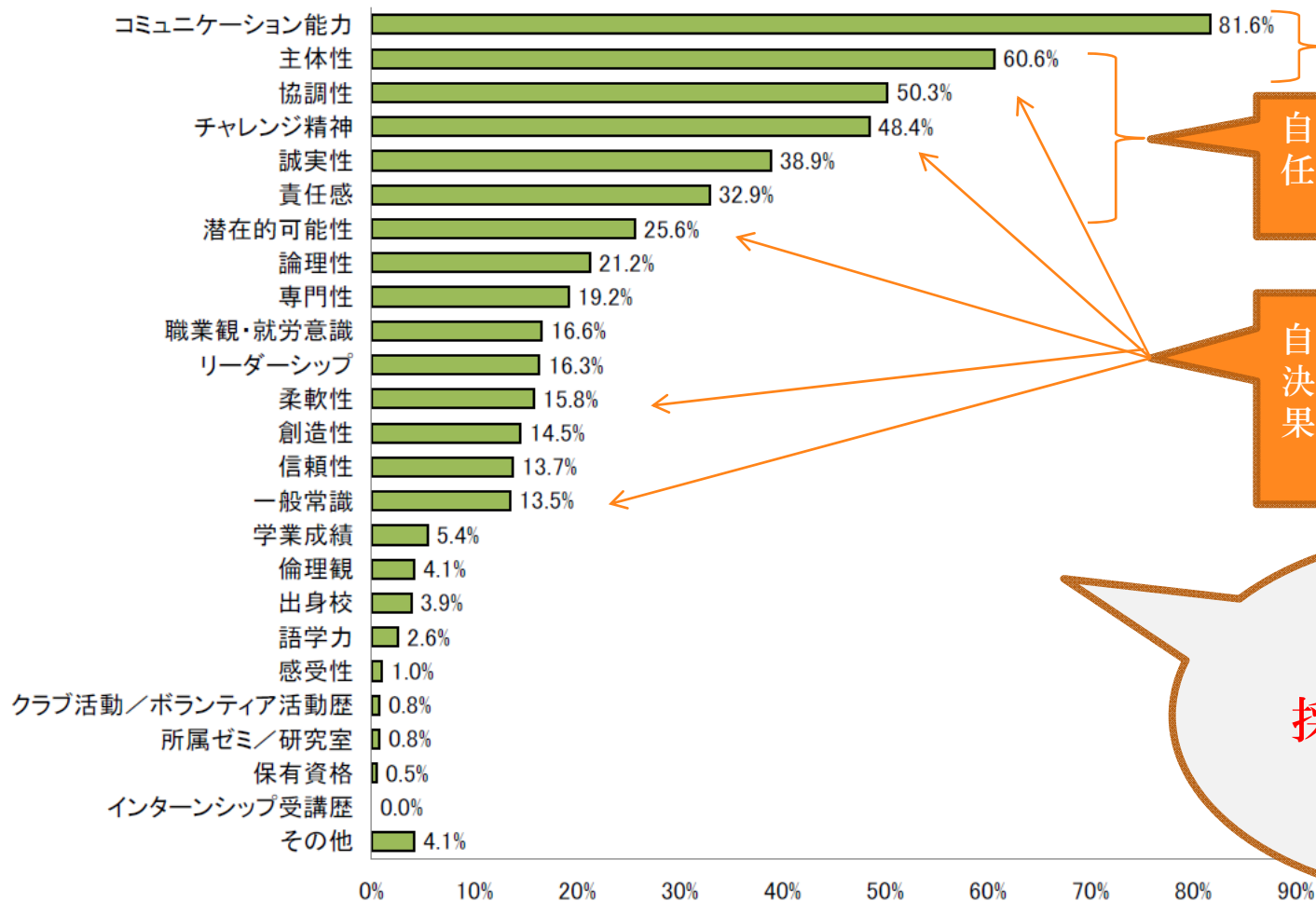
新卒採用（2010年3月卒業者）に関するアンケート調査結果の概要

2010年4月14日（社）日本経済団体連合会

<http://www.keidanren.or.jp/japanese/policy/2010/030.html>

(1)選考にあたって特に重視した点（複数回答）

(n=387)



独りよがりではなく、力を結集し

自分で何をすべきか考え、責任を持って仕事ができる

自分で問題を見つけ、その解決のため学習し、その活用結果を自分で評価して、自分を成長させていける

「学習力」と採用条件との関係は？

外国人の新規採用の増加

- 例：パナソニック 新規採用は80%を日本人以外から

- 海外進出事業の増加というだけではない
- 企業が求める能力を持った人員が、日本人よりも外国人に多い
- 日本の本社で勤務する外人新入社員が増加していく
- 日本の企業の中核も外人新入社員から育った人が多くなる

「自分で自分を成長させていける人が必要とされている!」

- 「学習力」の無い大学生は、海外の企業に採用されない
- 「学習力」の無い大学生は、日本の企業でも必要とされない

大学生に「学習力」を持たせましょう

大学生に「学習力」を持たせましょう

- 「学習力」を持つ大学卒業生が求められています

- 自分の成長という観点から自分の問題、ニーズを知ることができる
- 自分の成長が組織の発展にどのように寄与することができるか考え、自分の成長と組織の発展を統合して進めることができる
- 組織の発展が社会の繁栄にどのように寄与することができるか考え、組織の成長と社会の繁栄を統合して進めることができる
- 上記を実現するために、インストラクショナルデザイン手法を活用して、「自分や組織、社会のニーズ分析」、自分の「学習の設計」「学習方法の開発、選択」「学習の実施」「学習結果の評価」ができる。

- 「学習力」を持つ卒業生が増えれば、日本が繁栄し、アジア、世界が発展します

普及方法

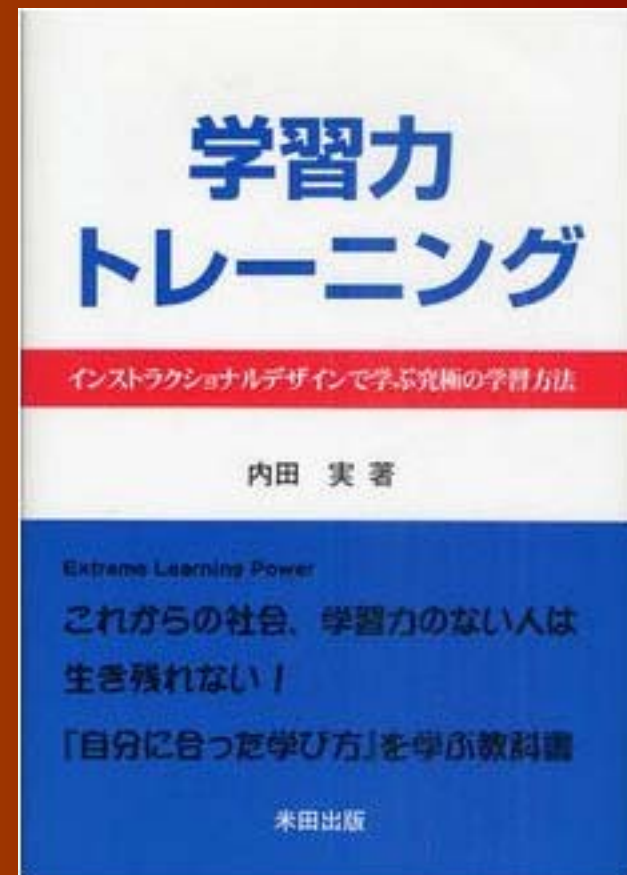
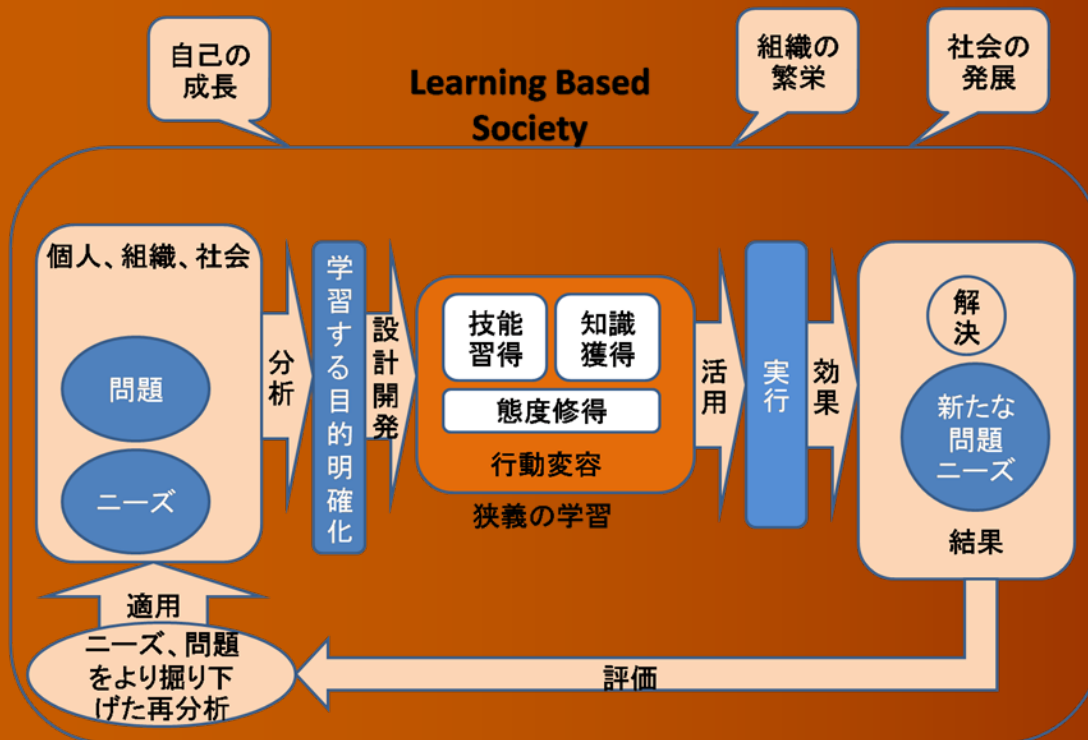
「学習力」学習実施方法は、普及される組織に合わせて実施できます。

- 集合セミナー実施(新入学生対象、就職指導時など)
- eラーニング
- 「学習力トレーニング」の購読
- 他

ご相談ください。

NO	分析実施項目	活用項目(例)			
		大学新入生	就活時	内定者教育	新入社員教育
01	現在の自分の学習の評価	○			
02	自分の学習した活性知識例	○			○
03	自分の学習した不活性知識例	○			○
04	欲求満足度分析	○	○	○	○
05	現在の自分の学習方法、学習目的を振り返る	○	○		
06	好きなことの分析	○	○		
07	得意なことの分析	○	○		
08	自分の選んだ仕事の分析	○	○	○	○
09	仕事はだれのどのような欲求を満足させるか	○	○	○	○
10	自分のLife計画の立案	○	○	○	○
11	自分の学習ニーズ調査対象	○		○	○
12	自分の学習ニーズ分析	○		○	○
13	自分の学習ゴール設定			○	○
14	自分の学習ゴール評価			○	○
15	自分の学習者としての特徴分析	○		○	○
16	自分のしたい仕事のタスク分析	○		○	○
17	自分のしたい仕事の学習目標分析	○		○	○
18	自分の学習タイプ	○			○
19	メディア分析				○
20	学生によるメディアの選択	○			
21	ガニエの9教授事象の学習への応用	○			○
22	ガニエの9教授事象に関する良かった授業、悪かった授業	○			○
23	ガニエの9教授事象に関する自分の選択した授業	○			○
24	ARCSモデルに関する良かった授業、悪かった授業	○			○
25	ARCSモデルに関する自分の選択した仕事の学習目標	○			○
26	メディア開発コスト分析				
27	大学生の受講コスト分析	○			
28	学習評価	○			○

学習力トレーニング



研究スタジオ

lbsstudio@support.email.ne.jp
<http://www.ne.jp/asahi/lbs/studio/>